

## 2022年度第8回12月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 2022年12月

2. 開催の場所 各委員に資料を郵送して番組をお聞きいただき、  
意見・感想を返信してもらう形式で開催

3. 委員の出席 委員総数9名  
返信総数9名

出席委員名	委員長	増田仲夫
	副委員長	河又弘子
	委員	竹内明子
	委員	富田哲夫
	委員	大森玲子
	委員	石松英昭
	委員	和久井要子
	委員	若井明香
	委員	佐子達仁

#### 4. 議 題

(1) 朝ワイト ビタミンとちぎ内コーナー「Time goes by」 4週分  
放送日 8月4日、9月1日、9月8日、11月3日  
毎週木曜日10時40分～放送中

(2) その他

#### 5. 議事内容

(1) 朝ワイト ビタミンとちぎ内コーナー「Time goes by」

番組視聴：放送した番組を各委員に送付して試聴していただいた

議題説明：ひとつの年代にスポットをあて、その時に何があったのか、出来事や流行、人物・商品など歴史の一ページを栃木放送アナウンサー小暮智が簡潔に、時には架空実況、一人芝居などを交えて紹介するコーナー。

各委員からは、

- 自分の過去と相まってその当時に戻れるような番組である。画像がなくても聴いているだけで面白い。歴史の1ページが15分にまとめられ、その時間聴いていられるのはピックアップした話題が興味深いものになっているからと思われた。老若男女とも聴きやすい番組で、アナウンサーの語りもゆっくりで、自らの体験や考え方も交えているので感じがよい。また、その当時の逸品をラジオドラマにしているがストーリーは想定内であるものの、声優を目指す学生を起用している企画はよいと思う。
- とても面白い番組でした。その時代の1トピックスにスポットライトを当てて詳しく伝えているのがよかった。トピックスと曲紹介があると、自分が生きていた時代は思い出がよみがえり、知らない時代は、「そんな時代があったんだ」と感じることができました。1人のアナウンサーが話しているとは思えない色々な声色の変化がさらに番組を盛り上げているなと思いました。
- ある一年を取り上げ、振り返るのは面白い。2016年は何の年？と言われて作新学院甲子園優勝とはすぐ出てこない。懐かしく思い出した。ただ、4回とも共通して感じたが、15分は長い。ナレーションにあるように「歴史の1ページを短く簡潔に、昔話風にひもといていく」のがよいと思うが、15分もあると集中できなくなる。一つの話題ではなくいくつか取り上げ、そのうち少なくとも一つは県内のニュースを取り上げてくれると栃木感がでてよいと思う。
- 過去のその年にあった出来事や流行などにスポットを当てることにより、リスナーに、その当時やその時期に起こった出来事などが思いおこされる番組である。また、単にその年の出来事や商品などの紹介だけではなく、それに因んだ演出や芝居など、様々な工夫をこらしてリスナーに伝えていると感じた。
- 1970年には、食材からだしを取ることが面倒である、女性社会進出など、50年経った現代でも語られる内容が、既に食品開発の背景要因になっていたことに驚き、この番組はアーカイブとしての役割も有すると感じた。また、記憶にも新しく当時の感動が蘇る作新学院、甲子園優勝やディズニーの歴史、ラジオドラマの展開など、内容が多方面に渡っており飽きない番組であるが、一方で固定ファンが付きづらそうであるとも感じた。挿入曲について、当時を思い返す懐かしの選曲であり、時代背景をもとにした音楽番組を編成してもよいのではないか。
- 「懐かしい」という感覚で、スーっと耳に入ってきて、その時代に何があったのか思い出させてくれた。また、味の素ほんだしのエピソードなど知らない出来事も盛り込まれていて面白かった。そして、自分自身もその時代にタイムスリップして、何をしていたのかなど当時の思い出がよみがえり「懐かしい」という気持ちになった。過去の出来事を振り返る番組はテレビでもやっているが、聴覚により情報を得る事で想像が広がるのはラジオの良さでもあると感じる番組であった。

- 聴取者に高齢者が多いと思われるAM放送で、過去のある時期にスポットを当て、出来事や人物などを紹介するという企画は、番組内の1コーナーとして興味をそそられ、はまっているコーナーとなっている。アナウンサーの語りが明るく、楽しく聴けるとともに、その当時の音楽が流れると、より当時の雰囲気や自分が何をしていたかなどを思い出すことができ、効果的に構成されていると感じた。一方、冒頭5～6分間の架空実況や一人芝居は、同アナウンサーの多芸多才ぶりには感心させられたが、やや長く、作り物感が感じられて、いかにモノマネがうまくできたか、同じように再現できたか、ということの方に興味がいつてしまい、当時の時代に思いを馳せてもらうという狙いからするとふさわしくないように感じた。架空の実況ではなく実際の実況の一部を流したり、実際の企業や会社の音声や紹介記事から引用したりの方が、効果的なのではないかと思う。
- 歴史の1ページを様々な角度から取り上げて昔話風にアレンジ構成したこの企画は良かった。作新学院夏の甲子園優勝、味の素の本だし、ソニーのニューヨーク株式市場上場、東京ディズニーランド開園、それらの話題の合間に挿入された往年のヒット曲のおかげで自分だけの懐かしい思い出が溢れ出し聞き入ってしまった。この企画番組には時の移り変わりを実感させてくれたことに感謝したい。
- 取り上げられた年代の話題からその年の出来事を思い出すことができ、リスナーにとって懐かしさを感じさせられる番組になっていたと思います。1970年のほんだしの発売では、女性の社会進出によって食の簡便性、利便性が追及されていることもあり、食の在り方が変化していく時期でもありました。ただ当時から現在までの食の様変わりに比べ、社会における真の女性参画がこれほどまでに進んでいないのかを改めて考える時間となりました。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

## (2) その他

### 6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

### 7. 番組審議会の答申および意見の概要の公表

- ① 当社の番組「栃木放送からのお知らせ」  
(2023年1月29日)
- ② 当社のホームページに掲載(2023年1月23日)
- ③ 当社事務局に議事録備え置き(2023年1月23日～)

以上